

平成25年 5月 10日

文部科学大臣 殿

大学の設置者の所在地	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	
大学の設置者の名称	国立大学法人京都大学	
(職名) フリガナ 代表者氏名	(総長) マツモト ヒロシ 松本 紘	(記名押印又は署名)
大学名 及び機関番号	京都大学	14301

平成24年度研究拠点形成費等補助金（グローバルCOEプログラム）実績報告書  
（拠点形成実績報告書）

整理番号	I09	開始年度	20年度	学問分野	社会科学
拠点のプログラム名称 親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点		拠点リーダー名 落合 恵美子		専攻等名（拠点となる大学） 文学研究科（行動文化学専攻）・教育学研究科（教育科学専攻）・人間・環境学研究科（共生人間学専攻）・法学研究科（法政理論専攻）・経済学研究科（経済学専攻）・農学研究科（生物資源経済学専攻）・人文科学研究科・地域研究統合情報センター	
連携先の大学名					
事業推進担当者 計 21名					
フリガナ 氏名（年齢）	所属部局・職名	現在の 専門・学位	役割分担（本年度の教育研究実施計画における分担事項）等		
(拠点リーダー) 落合恵美子（55）	文学研究科（行動文化学専攻）・教授	家族社会学 東大・社修	拠点リーダー、政策研究班、学際教育プログラム（家族社会学）		
伊藤公雄（61）	文学研究科（行動文化学専攻）・教授	文化社会学・ジェンダー論 京大・文修	成果公開部門総括、政策研究班、学際教育プログラム（ジェンダー論、メディア論）		
松田素二（57）	文学研究科（行動文化学専攻）・教授	地域社会学、社会人類学 京大・文博	教育実践部門総括、フィールド調査班、学際教育プログラム（地域社会学・人類学）		
田中紀行（51）	文学研究科（行動文化学専攻）・准教授	社会学史 京大・文修	理論研究班、学際教育プログラム（理論社会学）		
富永茂樹（63）	人文科学研究科（文化生成研究部門）・教授	知識社会学 京大・文博	理論研究班、学際教育プログラム（知識社会学）		
竹沢泰子（55）	人文科学研究科（文化連関研究部門）・教授	社会人類学 ワシントン大・Ph.D	フィールド調査班、学際教育プログラム（移民研究）		
押川文字（62）	地域研究統合情報センター（情報資源研究部門）・教授	南アジア地域研究 お茶の水大・文修	研究推進部門総括、フィールド調査班、学際教育プログラム（アジア社会論）		
高橋由典（62）	人間・環境学研究科（共生人間学専攻）・教授	感情の社会学 京大・文博	理論研究班、学際教育プログラム（感情社会学）		
吉田純（53）	高等教育研究開発推進センター（全学共通教育カリキュラム企画開発部門）・教授	社会学・社会情報学 京大・文博	数量調査班、学際教育プログラム（社会情報学）		

稲垣恭子 (57)	教育学研究科 (教育科学専攻) ・教授	教育社会学 京大・教修	歴史研究班、学際教育プログラム (歴史社会学・ジェンダー論)
岩井八郎 (57)	教育学研究科 (教育科学専攻) ・教授	教育社会学 大阪大・学修	数量調査班、学際教育プログラム (計量社会学)
小山静子 (59)	人間・環境学研究科 (共生人間学専攻) ・教授	日本教育史 京大・教博	歴史研究班、学際教育プログラム (歴史社会学・ジェンダー論)
新川敏光 (56)	法学研究科 (法政理論専攻) ・教授	福祉国家論・労働政治 トロント大学・Ph.D	政策研究班、学際教育プログラム (社会政策)
秋津元輝 (53)	農学研究科 (生物資源経済学専攻) ・准教授	農業経済学 京大・農博	政策研究班、学際教育プログラム (農村社会学)
若林直樹 (49)	経営管理研究部 (経営管理専攻) ・教授	経営組織論 京大・経博	数量研究班、学際教育プログラム (経営組織論)
杉浦和子 (56)	文学研究科 (行動文化学専攻) ・教授	人口地理学 京大・文博	数量調査班、学際教育プログラム (人口学)
田窪行則 (62)	文学研究科 (行動文化学専攻) ・教授	言語学 京大・文博	フィールド調査班、学際教育プログラム (韓国語)
木津祐子 (52)	文学研究科 (文献文化学専攻) ・教授	中国語学 京大・文博	歴史研究班、学際教育プログラム (中国語)
久本憲夫 (57)	経済学研究科 (経済学専攻) ・教授	労働経済学 京大・経博	政策研究班、学際教育プログラム (労働経済論)
横山美夏 (50)	法学研究科 (法政理論専攻) ・教授	民法 早稲田大・法修	理論研究班、学際教育プログラム (民法)
太郎丸博 (44)	文学研究科 (行動文化学専攻) ・准教授	社会階層論・数理社会学 大阪大・人間科学修士	数量調査班、学際教育プログラム (数理社会学)

拠点全体の補助金交付額		137,936 (千円)	
(拠点大学：〇〇大学)		(〇〇大学)	
137,936 (千円)		(千円)	
拠点全体の補助金額に占める拠点大学で使用した補助金額の割合			(%)
③ / (① + ④) × 100%			
拠点大学の補助金額	連携機関への委託費	拠点大学で使用した補助金額	他の大学の補助金額の総額
① = ② + ③ (円)	② (円)	③ (円)	④ (円)
137,936,000		137,936,000	

## 教育研究拠点形成実績の概要

本拠点は、現代世界が直面する全体的社会変化を「**親密圏と公共圏の再編成**」と捉え、研究、政策提言を行う学際的分野を創設、人材を養成し、教育・研究両面で協力するグローバルネットワークの構築を目的としてきた。拠点はアジア16拠点、ヨーロッパ12拠点、北米4拠点、オセアニア1拠点の合計**33拠点**となり基盤が一層強化された（別紙1図1）。平成24年度は、計画の完成と終了後の恒久拠点化を視野に拠点基盤の強化と成果発表に力を入れた。すでに平成23年に海外パートナー拠点を発起人として国際的組織である**親密圏/公共圏研究コンソーシアム**を設立したが、学内的にはプログラム終了後の事業継続のため、またコンソーシアムの事務局として、平成24年4月「**アジア親密圏/公共圏教育研究センター**」を文学研究科に設置した。同年12月には文学研究科を中心に京都大学の6研究科・2研究所および1センターが学際的に連合して「**アジア研究教育ユニット**」を設置し、本プログラムの国際ネットワークをすべて受け継ぎ、さらに追加して、本プログラムの開発した国際連携教育プログラムを全学的に拡大して実施する体制を作った。センターはユニット4部門の社会部門を担当する。

人材育成では「アジア版エラスムス・パイロット計画」を継続実施し、他資金による招聘派遣も増大したので、本計画を自律的に継続する体制を構築できたと言える。研究成果発表（別紙19）に関しては、Brill社より英語版の“The Intimate and the Public in Asian and Global Perspectives”（全16巻予定）の刊行を開始し、本年度中に2巻を刊行した。日本語では京大出版会よりシリーズ『変容する親密圏/公共圏』（全21巻予定）の刊行を継続し、入稿をほぼ完了、本年度は1巻、通算3巻を刊行した。さらに英文リーディングス『アジアの家族と親密性』（全7巻予定）および英文ジャーナルの編集を進めた。国際学会での発表、英語論文投稿等への支援も成果をあげた（別紙13表4）。またアジア家族比較数量調査（CAFS）の実査を終了し、分析作業を進めると共に、データベース公開への準備を進めている。多様なキャリアパス支援も成果を上げ、大学院生・研究員の多くが就職した。

## 【運営体制】

- (1) **拠点の運営体制**：運営委員会（毎月）、拠点会議（毎週）、事務局会議（毎週）を開催。アドバイザー委員の指導・助言を得た。平成24年4月にアジア親密圏/公共圏教育研究センターを、12月に京都大学6研究科・2研究所・1センターの連合により京都大学アジア研究教育ユニットを設置した。
- (2) **COE教員・研究員・RA/TA等の雇用（別紙2・3）**：准教授2名、COE研究員7名（継続4名、新規3名）雇用。短時間勤務の研究員**33名**雇用（公募）。RA13名・TA3名雇用。教務補佐員4名雇用、派遣職員6名。
- (3) **国際ネットワーク構築**：海外パートナー拠点**22地域33拠点**に増加。国際会議、次世代ワークショップ、ビジネスミーティング（11月）、韓国研修（8月）、中国研修（8月）、東アジアジュニアワークショップ（7月）、フィリピン研修（2月）、ハワイ研修（3月）、ベトナム研修（2月）、京都大学アジア研究教育ユニットの設置（12月）。

## 【人材育成】

- (1) **アジア版エラスムス・パイロット計画による海外派遣と海外招へい（別紙4表2）**：若手研究者**海外派遣34名**（うち24名大航海プログラム「京都エラスムス」）、**海外招へい14名**（8名他資金）、教員の**海外派遣25名**（うち19名他資金・先方の招へい）、**海外招へい20名**（5名他資金・自費）。
- (2) **次世代グローバルワークショップ開催（別紙9表3）**：若手研究者**海外30名**、**国内14名**、**海外アドバイザー37名**、**京大アドバイザー5名**参加により11月開催。英語執筆原稿の校閲・プレゼンテーション指導・外国語学習補助制度による個人指導を実施。**プロシーディングス**発行。若手研究者による運営。
- (3) 海外パートナーとの協力で、恒常的な学生と教員の交流を組み込んだ**国際連携教育の枠組**を確立。

- (4) 英語論文執筆支援：英語論文執筆支援制度による国際学会発表や国際雑誌投稿の促進。
- (5) 学会発表渡航支援（別紙13表4）：海外学会発表者12名の渡航支援。
- (6) 国際ワークショップ：台湾大学・ソウル大学と共催の東アジアジュニアワークショップ開催（9月・報告者25名）
- (7) グローバル学際教育プログラム（別紙14表5）：海外パートナー拠点教員による英語オムニバス講義、学内教員・研究員・院生による学際オムニバス講義。語学科目、英語プレゼンテーションの特別演習により英語発表・論文増加。6研究科2研究所の教員・COE教員の専門科目の提供。海外パートナー拠点との連携による海外研修の実施と単位化。
- (8) キャリアパスの多様化：自治体・NGO/NPOでのインターンシップの実施。京都新聞社との連携による講義。
- (9) 次世代研究出版プロジェクト：12件採択（【成果出版】参照）
- (10) 学位取得者（別紙15表6）：本拠点で中心的に活動する学生のみでの博士号取得者16名（平成20年度～24年度までの総計は54名）。
- (11) 国際的人材育成プログラム：ステップアップ方式による国際的人材育成体制の確立。

#### 【研究活動】

- (1) リーディングス『アジアの家族と親密性』：アジア8地域の収録論文の英訳終了、校閲編集。
- (2) アジア家族比較数量調査（CAFS=Comparative Asian Family Survey）：家族の実態・意識調査。5か国での実査を終了し（内2か国は別資金）、公開に向けたデータベース構築。比較分析。
- (3) コアプロジェクト（別紙16表7）：家族、移動、労働、政策、コミュニティ、メディア、歴史、理論、公共圏に関する15の中核的プロジェクトの実施と成果出版の準備。
- (4) 次世代研究出版プロジェクト：公募形式出版プロジェクト助成（総括型9件、国際集会型3件）。（別紙16表7）
- (5) 研究横断的なコアプロジェクト報告会：コアプロジェクトの報告会の開催。
- (6) 国際シンポジウム・セミナー（別紙17表11）：国際会議“Social Innovation and Sustainability for the Future”主催、および学会やNGO/NPOとの共催で実施。
- (7) 学会賞：松田素二（日本文化人類学会）、柴田悠（関西社会学会）など。（別紙22）

#### 【成果公開】

- (1) 次世代グローバルワークショップ・プロシーディングス（別紙21）：次世代研究者43名（日本14名、海外29名）の英文執筆指導と報告論文集の刊行。
- (2) リーディングス『アジアの家族と親密性』：英語版全7巻の英訳終了し最終校閲と編集。
- (3) 日本語版成果シリーズ「変容する親密圏/公共圏」の刊行。今年度1巻、通算3巻刊行。
- (4) 英語版シリーズ“The Intimate and the Public in Asian and Global Perspectives”2巻刊行。
- (5) ワーキングペーパー：次世代研究43点、男女共同参画4点刊行（別紙21）。
- (6) 次世代研究出版プロジェクト：5件は書籍として刊行予定、7件はワーキングペーパーとして刊行。
- (7) 英語学術雑誌：Journal of Intimate and Public Spheres 第2号の編集。
- (8) 成果出版：研究成果の出版（次世代研究出版プロジェクトを含む）（別紙20）。
- (9) 学術的成果の刊行：多くの研究成果が刊行された（別紙22）。
- (10) 京都大学オープンコースウェア：開講科目やシンポジウムのWEB上での公開。
- (11) ビデオライブラリー：ビデオ教材『国境を越える女たち』の活用。
- (12) 社会連携・実践活動：看護・介護に従事する外国人のためのスピーチコンテスト開催。
- (13) 国際シンポジウム：“Social Innovation and Sustainability for the Future”の開催。
- (14) 広報活動：NL9号、10号（別紙27）。OCWや研究業績DBのHPでの公開。

教育研究拠点形成に係る具体的な成果

**【世界的な教育研究拠点形成に向けて改善・整備されたこと】**

**(1) 海外パートナー拠点との連携の一層の強化**

- 1 海外パートナー拠点の追加：2地域の3拠点を追加した。
- 2 アジア版エラスムス・パイロット計画の定着
- 3 国際コンソーシアムの運営体制強化：国際ネットワーク永続化にむけて設置したコンソーシアム運営とその事務局としての「アジア親密圏/公共圏教育研究センター」の設置。
- 4 次世代ワークショップ・国際会議の継続的開催
- 5 アジアの知的共有基盤形成：リーディングス『アジアの家族と親密性』に収録する論文の英訳完了と刊行準備、アジア横断数量調査の実査終了とデータベース公開準備など、知的共有基盤形成が進展。
- 6 国際共同研究の成果発表：国際共同研究の成果の英語・日本語での刊行に向けた執筆完了。
- 7 グローバルネットワークの結節点としての英文ジャーナル：海外パートナー研究者との共同編集により第2号まで発行する。

**(2) 教育研究のグローバル化を促進する学内体制の整備**

- 1 海外研修・国際ワークショップの定着と単位化：韓国研修、中国研修、東アジアジュニアワークショップ、次世代グローバルジュニアワークショップの定着と単位化（一部は次年度より）。
- 2 研究科横断的な英語プログラム定着：海外パートナー拠点からのエラスムス招聘教員による英語オムニバス講義を研究科横断的に提供。他研究科の留学生の受講も多数。
- 3 「アジア親密圏/公共圏教育研究センター」の設置：文学研究科内に設置（平成24年4月）。GCOEの研究教育活動を継承し、コンソーシアムの事務局としての役割も果たす。
- 4 「アジア研究教育ユニット」の設置：文学研究科と経済学研究科を中心とする京都大学部局の学際的連合であるアジア教育研究ユニットを設置（平成24年12月）。GCOEの研究教育活動を継承し、さらに学際的・国際的に拡大。

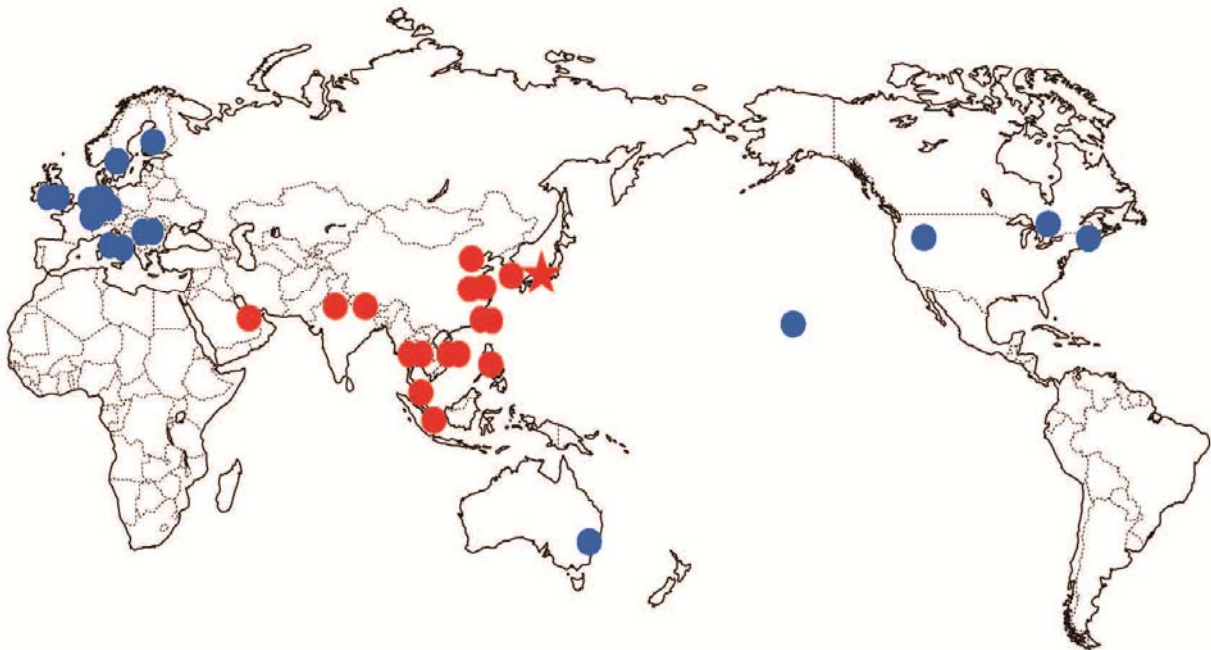
**【研究等によって得られた新たな知見】** 紙幅の制限からごく一部のみを記す

(1) アジア家族比較数量調査（CAFS）の実査を終了し、本調査の対象であるタイ、ベトナム、マレーシア、カタール、インドの5社会、および先行調査であるEASS2006の対象であった日本、中国、台湾、韓国についての比較分析の最初の成果が得られた。主な知見は次のとおり。①家族主義的価値観が最も強いのはインドとベトナム、次に強いのは台湾とタイ、最も弱いのは日本、次に弱いのは中国、カタールは意外に弱く7番目。②結婚する気のない男女の同棲に最も許容的なのはタイ、次は台湾、最も非許容的なのはベトナムとマレーシア。③性別分業にもっとも賛成するのはインドとマレーシア、反対するのはベトナム、韓国、台湾、タイ。全体として、東南アジア、東アジアそれぞれの地域内でも多様性が大きいこと、同じイスラム圏であるカタールとマレーシアにもかなり違いがあることなど、アジア地域の多様性の大きさが明らかとなった。

(2) アジアのケアレジームの比較検討から、①2000年代に入って東アジア・東南アジア各国でもケアが政策の対象となったこと、②政策の方向は脱家族化と家族化の両方が同時に見られること、③脱家族化政策は政府の役割の拡大ではなく、市場化やコミュニティの役割の拡大を促進する方向をとっていることが明らかになった。

(注) 本様式は拠点大学のみが記入。交付申請書で記載した「拠点形成の目的・必要性」, 「本年度の教育研究拠点形成実施計画」を踏まえ、原則本様式1枚(A4版)に記入すること。

図 1 海外パートナー拠点（22 地域 33 拠点）



### 海外パートナー拠点（22 地域 33 拠点）

#### アジア・パートナー（11 地域 16 拠点）：

ソウル国立大学 [韓国]、北京外国語大学 [中国]、復旦大学 [中国]、  
 南京大学 [中国]、国立台湾大学 [台湾]、国立中正大学 [台湾]、  
 フィリピン大学 [フィリピン]、ベトナム社会科学院 [ベトナム]、  
 社会開発研究所 [ベトナム]、チュラロンコン大学 [タイ]、  
 タマサート大学 [タイ]、シンガポール国立大学 [シンガポール]、  
 デリー大学 [インド]、トリブバン大学 [ネパール]、  
 プトラマレーシア大学 [マレーシア]、カタール大学 [カタール]

#### ヨーロッパ・パートナー（8 地域 12 拠点）：

ユバスキュラ大学 [フィンランド]、ストックホルム大学 [スウェーデン]、  
 ストラスブール大学 [フランス]、オックスフォード大学 [イギリス]、  
 ブリストル大学 [イギリス]、ポッフム大学 [ドイツ]、  
 ハイデルベルク大学 [ドイツ]、ライデン大学 [オランダ]、  
 エトベシュ・ロラード大学 [ハンガリー]、  
 ハンガリー科学院社会学研究所 [ハンガリー]、  
 パドバ大学 [イタリア]、ベネツィア大学 [イタリア]

#### 北アメリカ・パートナー（2 地域 4 拠点）：

ハワイ大学 [アメリカ]、カリフォルニア大学バークレー校 [アメリカ]、  
 ハーバード大学 [アメリカ]、トロント大学 [カナダ]

#### オセアnian・パートナー（1 地域 1 拠点）：

オーストラリア国立大学 [オーストラリア]

表 1 人材雇用

## 【COE 教員・研究員】

	准教授	研究員	研究員 (短時間)	RA	TA
文学研究科			8	6	3
人間・環境学研究科		1	3	1	
教育学研究科				2	
法学研究科			2		
経済学研究科			3	2	
農学研究科			2	2	
学内（上記以外）			1		
学外	2	6	14		
合計	2	7	33	13	3

職 名	氏 名	
COE 准教授（2名）	安里 和晃	
	森本 一彦	
COE 研究員（7名）	猪股 祐介	
	辛島 理人	
	黄 蘊	
	平田 知久	
	細谷 葵	
	渡邊 拓也	
	中川 千草	
COE 研究員（短時間）（33名）	網中(安部) 奈美江	西村 志保
	一宮 真佐子	濱野 健
	入江 恵子	福浦 一男
	江南 健志	福田 順
	越智 郁乃	藤坂 恭子
	木村 栄美	舟橋 健太
	小島 剛	古川 直子
	櫻田 涼子	牧野 雅子
	白崎 護	松井 智子
	鈴木 大介	松嶋 宣広
	知足 章宏	松永 歩
	知念 奈美子	水野 英莉
	田 恩伊	宮本 和歌子
	土田 陽子	八木 綾子
	戸梶 民夫	吉野 裕介
	長坂 康代	和足 憲明
	中原 久美子	

## 【RA : 13 名】

	氏名	所属	研究課題	受入教員	時間
1	アリボヴァ ・カモラ	人間・環境学 研究科	戦後の本におけるセクシュアリティの再編	小山 静子	144
2	井口 暁	文学研究科	モダニティ論からみた公共圏の理論的検討	田中 紀行	144
3	井上 烈	教育学研究科	女性文化人	稲垣 恭子	144
4	織田 暁子	文学研究科	福祉ケアレジーム	落合 恵美子	145
5	許 燕華	文学研究科	日本や韓国に在住する朝鮮族移住者の言語生活	木津 祐子	144
6	高 誠晩	文学研究科	日本および中国の近代都市形成における モニュメントの空間的配置研究	杉浦 和子	144
7	瀬戸・徐・ 映里奈	農学研究科	食を通じた共同性形成	秋津 元輝	144
8	伊達 平和	教育学研究科	アジア数量調査のデータのクリーニングと比較分析	岩井 八郎	144
9	野口 寛樹	経済学研究科	NPO についての概要調査および経営動向の調査	若林 直樹	90
10	朴 珍姫	文学研究科	現代ヴィジュアル・カルチャーに現れる女性像の 日韓比較研究	杉本 淑彦	144
11	李 征	経済学研究科	中国と日本の労働組合組織の実態研究	久本 憲夫	144
12	芦田 裕介	農学研究科	GCOE 成果取りまとめ	伊藤 公雄	208
13	阿部 友香	文学研究科	リーディングスに関する資料およびデータの整理	落合 恵美子	30

## 【TA : 3 名】

	氏名	所属	補助授業名	受入教員	時間
1	有本 尚央	文学研究科	地域にまなぶ —— 三重県熊野地域の 100 年と地域の未来 ——	松田 素二	45
2	Sandrovyeh Tymur	文学研究科	近現代の社会・文化現象の社会学	伊藤 公雄	80
3	Milos Debnar	文学研究科	社会学調査実習	太郎丸 博	80



表 2 エラスムス派遣・招へい

【次世代研究者派遣：34名】

	氏名	所属	派遣期間(MM/DD/YY)	派遣先
1	野口 寛樹*	経済学研究科博士課程	4/1/2012 - 4/6/2012	国立成功大学 (台湾)
2	鈴木 大介*	COE 研究員	6/5/2012 - 6/11/2012	ルンド大学 (スウェーデン)
3	平田 知久	COE 研究員	6/29/2012 - 8/8/2012	ブエノスアイレス大学 (アルゼンチン) ほか
4	郝 洪芳*	文学研究科博士課程	6/30/2012 - 9/27/2012	四川外語学院 (中国)
5	野口 寛樹*	経済学研究科博士課程	7/4/2012 - 7/9/2012	アールト大学(フィンランド)
6	許 燕華	文学研究科博士課程	7/19/2012 - 8/29/2012	ソウル大学 (韓国)、延辺大学 (中国)
7	井口 暁*	文学研究科博士課程	7/25/2012 - 8/10/2012	ブエノスアイレス大学 (アルゼンチン)
8	吉野 裕介*	COE 研究員	7/27/2012 - 8/27/2012	中央研究歐美研究所 (台湾)
9	佐々木 祐*	文学研究科 PD	7/30/2012 - 8/9/2012	ブエノスアイレス大学 (アルゼンチン)
10	Milos Debnar*	文学研究科博士課程	7/30/2012 - 8/6/2012	ブエノスアイレス大学 (アルゼンチン)
11	福浦 一男*	COE 研究員	8/1/2012 - 10/1/2012	チェンマイ大学 (タイ)
12	辛島 理人*	COE 研究員	8/5/2012 - 8/25/2012	ソウル大学 (韓国)
13	洪 慧儒*	文学研究科修士課程	8/5/2012 - 8/25/2012	ソウル大学 (韓国)
14	鈴木 詩織*	文学研究科修士課程	8/5/2012 - 8/25/2012	ソウル大学 (韓国)
15	木村 可奈子*	文学研究科博士課程	8/5/2012 - 8/25/2012	ソウル大学 (韓国)
16	Sandrovyeh Tymur*	文学研究科博士課程	8/5/2012 - 8/25/2012	ソウル大学 (韓国)
17	楊 洋*	文学研究科博士課程	8/5/2012 - 8/25/2012	ソウル大学 (韓国)
18	中村 昇平*	文学研究科博士課程	8/5/2012 - 8/25/2012	ソウル大学 (韓国)
19	Rudy Toet*	文学研究科博士課程	8/5/2012 - 8/25/2012	ソウル大学 (韓国)
20	姜 詩瑛*	文学部	8/5/2012 - 8/25/2012	ソウル大学 (韓国)

21	細谷 葵*	COE 研究員	8/5/2012 - 8/25/2012	ソウル大学 (韓国)
22	徐 堯*	文学研究科修士課程	8/5/2012 - 8/25/2012	ソウル大学 (韓国)
23	張 苧心*	文学研究科修士課程	8/5/2012 - 8/25/2012	ソウル大学 (韓国)
24	井口 暁**	文学研究科博士課程	9/1/2012 - 8/31/2013 (予定)	ハイデルベルク大学(ドイツ)
25	黄 蘊*	COE 研究員	9/1/2012 - 9/7/2012	国立台湾大学 (台湾)
26	許 燕華*	文学研究科博士課程	9/1/2012 - 9/7/2012	国立台湾大学 (台湾)
27	櫻田 涼子	COE 研究員	9/19/2012 - 9/23/2012	南京大学社会科学院 (中国)
28	細谷 葵**	COE 研究員	11/8/2012 - 11/16/2012	ロンドン大学・ヨーク大学(イギリス)
29	RAJKAI Zsombor	立命館大学准教授	11/9/2012 - 11/17/2012	ハンガリー科学院社会学研究所 (ハンガリー)
30	野口 寛樹*	経済学研究科博士課程	12/9/2012 - 12/13/2012	高麗大学 (韓国)
31	Piya PONGSAPITA KSANTI	長崎県立大学准教授	12/22/2012 - 1/7/2013	タマサート大学 (タイ) ほか
32	織田 暁子	文学研究科博士課程	1/9/2013 - 1/13/2013	ブリストル大学 (イギリス)
33	柴田 悠	同志社大学准教授	3/18/2013 - 3/24/2013	チュラロンコーン大学(タイ)
34	竹内 麻貴	立命館大学博士課程	3/17/2013 - 3/23/2013	チュラロンコーン大学(タイ)

\*大航海プログラム「京都エラスムス」による派遣

\*\*他資金による派遣

【教員派遣 (主に海外パートナー拠点への派遣) : 25 名】

	氏 名	所 属	派遣期間(MM/DD/YY)	派遣先
1	久野 秀二*	経済学研究科教授	4/1/2012 - 9/3/2012	ライデン大学 (オランダ)
2	秋津 元輝	農学研究科准教授	6/14/2012 - 7/21/2012	チュラロンコーン大学(タイ)ほか
3	安里 和晃	COE 准教授	7/26/2012 - 8/16/2012	ソウル大学(韓国)ほか

4	安里 和晃	文学研究科特定准教授	2/1/2013 - 2/15/2013	ハワイ大学(アメリカ)
5	松田 素二*	文学研究科教授	2/27/2013 - 3/13/2013	チェンマイ大学(タイ)ほか
6	松田 素二*	文学研究科教授	5/1/2012 - 5/6/2012	北京外語大学(中国)
7	落合 恵美子*	文学研究科教授	5/23/2012 - 5/27/2012	啓明大学(韓国)
8	落合 恵美子*	文学研究科教授	6/8/2012 - 6/10/2012	ソウル大学(韓国)
9	落合 恵美子*	文学研究科教授	6/21/2012 - 6/23/2012	慶南大学(韓国)
10	落合 恵美子	文学研究科教授	7/15/2012 - 7/22/2012	ブリストル大学(イギリス)ほか
11	太郎丸 博*	文学研究科准教授	8/14/2012 - 8/18/2012	ユバスキュラ大学(フィンランド)
12	押川 文子*	地域研究統合情報センター教授	8/19/2012 - 8/26/2012	デリー大学(インド)
13	安里 和晃*	COE 准教授	8/19/2012 - 8/27/2012	フィリピン大学(フィリピン)
14	落合 恵美子*	文学研究科教授	9/1/2012 - 9/7/2012	国立台湾大学(台湾)
15	安里 和晃*	COE 准教授	9/1/2012 - 9/7/2012	国立台湾大学(台湾)
16	安里 和晃*	COE 准教授	9/11/2012 - 9/20/2012	フィリピン大学(フィリピン)
17	伊藤 公雄*	文学研究科教授	9/24/2012 - 10/1/2012	ベネツィア大学(イタリア)ほか
18	落合 恵美子*	文学研究科教授	10/25/2012 - 10/29/2012	中国社会科学院(中国)
19	落合 恵美子*	文学研究科教授	12/10/2012 - 12/15/2012	The Centre for Creative Initiatives in Health and Population (CCIHP)(ベトナム)
20	伊藤 公雄	文学研究科教授	1/9/2013 - 1/13/2013	ブリストル大学(イギリス)
21	太郎丸 博	文学研究科准教授	1/9/2013 - 1/13/2013	ブリストル大学(イギリス)
22	太郎丸 博*	文学研究科准教授	2/17/2013 - 2/24/2013	ベトナム社会科学院(ベトナム)

23	落合 恵美子*	文学研究科教授	2/27/2013 – 3/5/2013	フィリピン大学(フィリピン)
24	安里 和晃*	COE 准教授	2/27/2013 – 3/5/2013	フィリピン大学(フィリピン)
25	伊藤 公雄*	文学研究科教授	3/1/2013 – 3/12/2013	ベネツィア大学(イタリア)ほか

以下の条件にあてはまる者を列記 (\*は他資金による派遣・先方の招へい)

- ・ 2 週間以上の滞在 (1~5)
- ・ 現地で講演・授業・セミナーを実施 (下線)
- ・ 海外パートナーへの派遣

【次世代研究者招へい：14名】 次世代グローバルワークショップを除く

	氏 名	所 属	招へい期間(MM/DD/YY)
1	WANG Meng*	Beijing Foreign Studies University (China)	4/1/2012 – 8/30/2012
2	LIN Hung-Yi*	National Taichung University of Science and Technology (Taiwan)	6/15/2012 – 9/15/2012
3	TRAN Thi Minh Thi	Vietnam Academy of Social Science (Vietnam)	4/6/2012 – 4/9/2012
4	CHEN Xi	Fudan University (China)	6/15/2012 – 6/19/2012
5	Anna Elizabeth SEABOURNE*	The University of Manchester (UK)	6/19/2012 – 8/22/2012
6	Lisette SCHOUTEN*	Ruprecht-Karl University of Heidelberg (Germany)	7/14/2012 – 9/30/2012
7	Yu Xiao	Department of Political Science, National University of Singapore (Singapore)	7/29/2012 – 11/25/2012
8	PO Chung-Yum*	Ruprecht-Karl University of Heidelberg (Germany)	8/6/2012 – 9/28/2012
9	GUO Pei*	Beijing Foreign Studies University (China)	9/1/2012 – 8/31/2013
10	TRAN Thi Minh Thi*	Vietnam Academy of Social Science (Vietnam)	9/10/2012 – 12/7/2012
11	Tuukka TOIVONEN*	University of Oxford (UK)	11/1/2012 – 12/18/2012
12	Björn-Ole Kamm	Ruprecht-Karl University of Heidelberg (Germany)	11/1/2012 – 1/31/2013
13	TRAN Thi Minh Thi	Vietnam Academy of Social Science (Vietnam)	3/14/2013 – 3/18/2013
14	Tuukka TOIVONEN*	University of Oxford (UK)	3/29/2013 – 7/15/2013 (予定)

\*他資金による招へい・来日

## 【教員招へい：20名】 次世代グローバルワークショップを除く

	氏 名	所 属	招へい期間(MM/DD/YY)
1	Prof. Nirmal Man TULADHAR*	Tribhuvan University (Nepal)	4/1/2012 – 12/15/2012
2	Prof. Maya KELYAN*	Bulgarian Academy of Sciences (Bulgaria)	4/1/2012 – 3/29/2013
3	<u>Prof. KOIKARI Mire</u>	University of Hawaii (USA)	6/1/2012 – 6/30/2012
4	<u>Prof. LAN Pei-Chia</u>	National Taiwan University (Taiwan)	7/8/2012 – 7/29/2012
5	<u>Prof. Pekka KORHONEN</u>	University of Jyväskylä (Finland)	9/29/2012 – 12/2/2012
6	Prof. Michele FORTE*	Strasbourg University (France)	11/2/2012 – 11/16/2012
7	<u>Prof. YANG Der-Ruey</u>	Nanjing University (China)	11/28/2012 - 12/28/2012
8	Prof. EUN Ki-Soo	Seoul National University (Korea)	6/15/2012 – 6/18/2012
9	Prof. Thanés WONGYANNAVA	Thammasat University (Thailand)	6/15/2012 – 6/19/2012
10	Prof. NGUYEN Huu Minh	Institute for Social Development Studies (Vietnam)	6/15/2012 – 6/19/2012
11	Prof. Carolyn SOBRITCHEA	University of the Philippines (Philippines)	6/15/2012 – 6/19/2012
12	Prof. HOU Yangfang	Fudan University (China)	6/15/2012 – 6/22/2012
13	Prof. Patricia UBEROI	Institute of Chinese Studies (India)	6/15/2012 – 6/19/2012
14	Prof. TSENG Yen-Fen*	National Taiwan University (Taiwan)	7/27/2012
15	Prof. KOIKARI Mire*	University of Hawaii (USA)	1/10/2013 – 1/11/2013
16	Prof. Worawet SWANRADA	Chulalongkorn University (Thailand)	3/13/2013 – 3/19/2013
17	Prof. WANG Shu Yung	National Chung Cheng University (Taiwan)	3/14/2013 – 3/17/2013
18	Prof. EUN Ki-Soo	Seoul National University (Korea)	3/20/2013 – 3/23/2013
19	Prof. Rahimah IBRAHIM	Universiti Putra Malaysia (Malaysia)	3/19/2013 – 3/24/2013
20	Prof. Jo-Pei TAN	Universiti Putra Malaysia (Malaysia)	3/18/2013 – 3/25/2013

以下の条件にあてはまる者を列記 (\*他資金による招へい・来日)

- ・ 2週間以上の滞在 (1～7)
- ・ 講演・授業・セミナーを実施 (下線)
- ・ 海外パートナー

表 3 次世代グローバルワークショップ

PROGRAM	
The 5th Next-Generation Global Workshop “Social Innovation and Sustainability for the Future: Recreating the Intimate and Public Spheres” at Inamori Center Bldg., Kyoto University, Japan	
DAY 1: November 6 (Tue), 2012	
9:30 - 10:00	Registration
10:00 - 10:20	Opening Remarks: Prof. HATTORI Yoshihisa (Kyoto University)
<b>Room: I</b>	<b>Session 1: Family 1</b>
	Chair:
10:20 - 10:45	Tymur SANDROVYCH (Kyoto University) Sustainability and Children—Family and Childcare Under Disaster: Comparative Study of Fukushima and Chernobyl
10:45 - 11:10	MIZOGUCHI Yuji (Kyoto University) Photos as media of “Familiarity”: A Case Study of Relief Activities of Private Photos Flooded on 3.11
11:10 - 11:35	TRAN Thi Cam Nhung (Vietnam Academy of Social Sciences) Should or Shouldn’t: What Make a Spouse Decide to Divorce?
11:35 - 12:00	Jo-Pei TAN (Universiti Putra Malaysia / University of London) Adult Children’s Expectations of Parental Support in Times of Adversities: Marital Relations as an Intervening Factor?
12:00 - 12:20	Comments: Prof. HOU Yangfang (Fudan University)
12:20 - 13:50	Lunch Break
	<b>Session 4: Family 2</b>
	Chair: PARK Sara (Kyoto University)
13:50 - 14:15	LEE Eun-Kyung (Seoul National University) A Comparative Study of Marriage Process in Japan, South Korea, Taiwan and Thailand : Focusing on Mate Selection Process
14:15 - 14:40	Jenna VALLERIANI (University of Toronto) “They Should Do What They Want, It’s Just Not My Thing”: Sexual Decision-Making in Heterosexual and Same-Sex Marriages in Ontario
14:40 - 15:05	PARK Soohee (Seoul National University) Ethno-demographic Change and The Dilemma of Korean Ethnic Exceptionalism
15:05 - 15:30	TRAN Thi Minh Thi (Vietnam Academy of Social Sciences / Kyoto University) Prevalence and Pattern of Divorce in Contemporary Vietnam: Tradition, Modernity and Individualism
15:30 - 15:50	Comments: Prof. Esther DERMOTT (University of Bristol)
15:50 - 16:10	Break
	<b>Session 7: Innovation and Social Change</b>
	Chair: Thorn PITIDOL (University of Oxford)
16:10 - 16:35	ISHII Kazuya (Kyoto University / Otani University) Bullet Train Plan as a Transnational Infrastructure
16:35 - 17:00	Andrea GIOLAI (Cà Foscari University of Venice) Borders of Tradition: Social Innovation, Hybridity and Consumption of Traditional Music in Contemporary Japan
17:00 - 17:25	Comments: Prof. Katarzyna J. CWIERTKA (Leiden University)

Room: II	Session 2: Social Movement and Development
	Chair: Helen ERIKSSON (Stockholm University)
10:20 - 10:45	Yoko Iida WANG (University of Hawaii) Dissociative Policies and the Dismantlement of Mobilizing Structure in Japanese Civil Society
10:45 - 11:10	Fatma Saeed AL-HASSAN (Qatar University) Arab Middle Eastern Women in Qatar and their Perspectives on the Barriers to Leadership: Incorporating Transformative Learning Theory into Graduate Educational Leadership Programs
11:10 - 11:35	Madhu GIRI (Tribhuwan University) From Hidden to Public Sphere: Social Movement as a Tool for Empowering Marginalized Communities in Nepal
11:35 - 12:00	XUE Li-yu (Fudan University) The Development and Variety about the Ethnic Population in Modern China
12:00 - 12:20	Comments: Prof. LIU Hwa-Jen (National Taiwan University)
12:20 - 13:50	Lunch Break
	Session 5: Environment
	Chair: TOE Tetsuri (Japan Society for the Promotion of Science)
13:50 - 14:15	NISHIKAWA Junji (Kyoto University) Governing the City and the Infrastructure of Sunlight in Pre-war Japan
14:15 - 14:40	CHIASHI Akihiro (Kyoto University) Industrial Pollution in China and the Global Economy: A Case Study of Xing Long Village, Yunnan Province
14:40 - 15:05	YU Xiao (National University of Singapore / Kyoto University) Pollution as Smokescreen: Pollution-induced Contention in Liushuwan Village of Zhejiang Province
15:05 - 15:30	Comments: Prof. Christian GÖBEL (Heidelberg University)
15:30 - 15:50	
15:50 - 16:10	Break
	Session 8: Gender and Sexuality
	Chair: On-anong SAIPHOKLANG (Chulalongkorn University)
16:10 - 16:35	Kiran BHAIKANAVAR (National University of Singapore) New Spaces of Intimacies: Exploring the Changing Homosexual Spaces in Delhi, India
16:35 - 17:00	Muriel DUDT (University of Strasbourg) Exploring Social Policies as “Potential Space” for New Gender Arrangements: The Case of Boys and Girls Living in French and German Deprived Neighborhoods
17:00 - 17:25	Chanan YODHONG (Thammasat University) Sexualities and the Strengthening of Monarchy in Pre-Modern Thailand
17:25 - 17:50	HIRATA Tomohisa (Kyoto University) The Price of Using the Internet without Shame: “Bar Girls” in Bangkok and the Internet Cafe as Infrastructure
17:50 - 18:10	Comments: Prof. Rajni PALRIWALA (University of Delhi)



<b>Room: III</b>	<b>Session 3: Media and IT</b>
	Chair: JUNG Pil Joo (Seoul National University)
10:20 - 10:45	Björn-Ole KAMM (Heidelberg University / Kyoto University) Ethics of Internet-based Research on Japanese Subcultures
10:45 - 11:10	Brooke STORER-CHURCH (University of Bristol) Facebook Groups as Unique Publics: Exploring the Overlaps of Private and Public in Young British Muslim Users' Experiences
11:10 - 11:35	Deirdre SNEEP (Leiden University) Keitai Cyborgs: The Blurring Boundaries between the Private and the Public Sphere in Contemporary Japan
11:35 - 12:00	YOU Yu-Ching (National Taiwan University) Digital Inequality and Exclusion: The Barriers of First Order and Second Order Digital Divide in Taiwan
12:00 - 12:20	Comments: Prof. Paolo CALVETTI (Ca' Foscari University of Venice)
12:20 - 13:50	<b>Lunch Break</b>
	<b>Session 6: Labor</b>
	Chair: Rosy HASTIR (University of Delhi)
13:50 - 14:15	Jaok KWON (Heidelberg University) Gender Politics in Labor Movements in South Korea: Rethinking the "Progressiveness" of Labor Movements
14:15 - 14:40	Edgie Francis B. UYANGUREN (University of the Philippines) Labor Education through Radio: Status and Directions
14:40 - 15:05	FUKUDA Jun (Kyoto University) Human Resource Management and Corporate Governance in Japanese Small- and Mid-Sized Firms
15:05 - 15:30	Dina Marie B. DELIAS (National University of Singapore) Governance of the Global Economy: A Case Study of Voluntary Self-Regulation in the Business Process Outsourcing (BPO) Industry
15:30 - 15:50	Comments: Prof. LUE Jen-Der (National Chung Cheng University)
15:50 - 16:10	<b>Break</b>
	<b>Session 9: Welfare 1</b>
	Chair: Tymur SANDROVYCH (Kyoto University)
16:10 - 16:35	Helena HIRVONEN (University of Jyväskylä) Building Trust and Accountability in Welfare Service Work From Embodied to Disembodied Practices of Care
16:35 - 17:00	LEE Pei-Fang (National Chung Cheng University) Rethinking Filial Norms and Inter-generational Contract for the Family and Welfare State
17:00 - 17:25	GUO Pei (Beijing Foreign Studies University / Kyoto University) The Role of the Community in Elder Care Diamond in China: Take Huacheng Community Longtan Street Chongwen District Beijing City as an Example
17:25 - 17:50	Joanna DORAN (University of California, Berkeley) Individual Development Accounts: A Cornerstone of New Asset-based Social Policy?
17:50 - 18:10	Comments: Prof. Fran BENNETT (University of Oxford)

<b>DAY 2: November 7 (Wed), 2012</b>	
9:00 - 9:30	Registration
<b>Room: I</b>	<b>Session 10: Welfare 2</b>
	Chair: Yoko Iida WANG (University of Hawaii)
9:30 - 9:55	Borbála KOVÁCS (University of Oxford) Analysing Childcare Policies in Central and Eastern Europe: Accounting for the De-familialising Potential of Paid Informal Childcare Services
9:55 - 10:20	YANG Jing (Beijing Foreign Studies University) The Development Trend of Sino-Japanese Childcare Issue: With “Care Diamonds” in the Child Welfare Acts as the Focus
10:20 - 10:45	Helen ERIKSSON (Stockholm University) Indirect Costs of Being on Leave: Life-cycle Effects in Earnings on Parental Leave Usage
10:45 - 11:10	TOE Tetsuri (Japan Society for the Promotion of Science) Parent Identity in Action: Conversational Accomplishment of a Parent Who Knows Best
11:10 - 11:30	Comments: Prof. WANG Cheng (National Chung Cheng University)
<b>Room: II</b>	<b>Session 11: Migration</b>
	Chair: CHIASHI Akihiro (Kyoto University)
9:30 - 9:55	On-anong SAIPHOKLANG (Chulalongkorn University) Time-Use in Childrearing in Migrant Workers’ Families in Thailand: An Ordered Logistic Regression Approach
9:55 - 10:20	Varvara MUKHINA (Kumamoto University) Considering Social Incorporation of Marital Immigrants in Japan: A Case of Russian-Speaking Wives
10:20 - 10:45	Rosy HASTIR (University of Delhi) Inter-Generation Difference and Gender Equality: A Study of Sikh Immigrants in Italy
10:45 - 11:10	PARK Sara (Kyoto University) Controlling “Illegal Migration” into Japan: Historical Origins of Alien Registration System in a “Homogeneous” Society
11:10 - 11:30	Comments: Prof. Mire KOIKARI (University of Hawaii)
<b>Room: III</b>	<b>Session 12: Community</b>
	Chair: FUKUDA Jun (Kyoto University)
9:30 - 9:55	Thorn PITIDOL (University of Oxford) The Paradox of Community Development: Lessons from the Promotion of Community Participation in Thailand
9:55 - 10:20	JUNG Pil Joo (Seoul National University) Digital Cultural Platform and Cultural Public Sphere: The Case of Google’s Library Project
10:20 - 10:45	LI Xiaofei (Nanjing University of Science and Technology) The Reproduction and Changes of a Temple Fair (1930-2010): Case Study of a Chinese Village
10:45 - 11:10	Comments: Prof. Harald FUESS (Heidelberg University)
11:30 - 12:30	<b>Wrap-up Meeting</b>
12:30 - 14:30	<b>Lunch Break / Brill and JIPS Joint Meeting (members only)</b>
14:30 - 17:00	<b>Business Meeting (advisors only)</b>

表 4 学会発表渡航支援（12名）

	氏名	開催期間	国際学会名（開催地）
1	菅野 優香	7/2/2012 - 7/6/2012	Association for Cultural Studies (ACS) (Paris, France)
2	知足 章宏	7/5/2012 - 7/8/2012	韓国環境経済学会 (Korean Environmental economics association) (Jeonju-si, Korea)
3	鈴木 史己	7/9/2012 - 7/11/2012	明清領域研究生論文発表会、小説研究部門 (HongKong, China)
4	早川 太基	7/9/2012 - 7/11/2012	香港中文大學明清研究中心「明清領域研究生論文 発表会・芸術史研究」 (HongKong, China)
5	長坂 真澄	7/10/2012 - 7/12/2012	"SIREL(エマニュエル・レヴィナス研究国際学会) 主催の COLLOQUE INTERNATIONAL : METAPHYSIQUE, MORALE ET TEMPS - BERGSON, JANKELEVITCH, LEVINAS (国際学会 : 形而上学、道徳、時間——ベルクソン、ジャン ケレヴィッチ、レヴィナス)" (Toulouse, France)
6	濱野 健	7/11/2012 - 7/13/2012	"Asian Studies Association of Australia (ASAA) 19th Biennial Conference 2012: Knowing Asia: Asian Studies in an Asian Century"(Sydney, Australia)
7	瀬戸・徐 映 里奈	7/29/2012 - 8/4/2012	XIII World Congress of Rural Sociology in Lisbon Portugal (Lisbon, Portugal)
8	松谷 実のり	8/1/2012 - 8/4/2012	"Second ISA Forum of Sociology RC34 Sociology of Youth Round Table Session 1" (Buenos Aires, Argentina)
9	安井 大輔	8/1/2012 - 8/4/2012	"The Second ISA Forum of Sociology *Research Committee on Biography and Society, RC38, *Research Committee on Economy and Society, RC02" (Buenos Aires, Argentina)
10	長坂 真澄	8/21/2012 - 8/25/2012	ASLPF (フランス語哲学会連合) 主催の Le XXXIVe Congrès se tiendra à Louvain-la-Neuve et à Bruxelles (Leuven, Belgium)
11	中原 由望子	9/3/2012 - 9/6/2012	14th European Symposium of Suicide and Suicidal Behavior (Tel Aviv, Israel)
12	日下 渉	10/28/2012 - 10/30/2012	ICOPHIL-9: The Ninth International Conference on the Philippines (East Lansing, USA)

表 5 2012 年度カリキュラム

## 2012 年度 GCOE 関連科目開講一覧

科 目		題 目	担 当	時限・学期
基礎講義		日本語学際リレー講義 「親密圏と公共圏の再編成」(前期・後期)	伊藤公雄	木 2 前期 木 2 後期
		海外研究者による英語リレー講義 Reconstruction of the Intimate and Public Spheres (前期・後期)	Koikari Mire (ハワイ大学)	木 3,4 前期
	Pei-Chia Lan (国立台湾大学)			
	Ari Pekka Korhonen(ユバスキュラ大学) Yang Der-Ruey (南京大学)		木 3,4 後期	
	専門講義	A 群 (理論)	公共性と親密性の弁証法	富永茂樹
行為論と社会分析			高橋由典	金 4 前期
B 群 (歴史)		歴史社会学	稲垣恭子	水 3 後期
		人間形成史論	小山静子	水 4 前期
		清代域外官話研究	木津祐子	月 4 通年
		倉富勇三郎日記を読む	永井 和	火 5 通年
C 群 (計量)		社会調査の意義と作法	岩井八郎	金 3 前期
		社会調査における多変量解析の利用		金 3 後期
		基本的な資料とデータ分析 社会調査の実際	太郎丸博	水 2 前期 水 4 通年
D 群 (フィールド)		人種・エスニシティ論	竹沢泰子	金 4,5 通年
		欧米における農村・農業社会学および農業倫理研究の最前線	秋津元輝	集中前期
		地域社会研究における質的調査の技法		水 2 後期
		質的調査法の可能性	森本一彦	火 2 前期
		生物・文化資源利用の地理学	小林致広	水 2 通年
E 群 (政策)		福祉国家の政治経済学	新川敏光	月 4, 水 4 前期
		経営組織論	若林直樹	火 2 後期
		厚生労働政策	久本憲夫	火 2 前期
		グローバリゼーションと人の国際移動	安里和晃	火 4 前期
		東アジア社会研究	落合恵美子	月 4 前期
F 群 (情報・メディア)		現代社会とジャーナリズム	伊藤公雄	木 5 通年
	情報社会ネットワーク論	吉田純	火 3 前期	
	社会情報学の諸問題		火 4 後期	
基礎コミュニケーション	中国語(現代中国の社会問題をめぐる言論状況)	小野寺史郎	火 2 通年	
	独語(支配の社会学)	田中紀行	火 4 通年	
	韓国語韓国社会実地研修	田窪行則	集中前期	
専門演習	東アジア社会研究の理論と方法	落合恵美子	火 5 通年	
	現代社会の理論的考察	伊藤公雄	水 3 通年	
	比較文化行動論の諸問題	松田素二	月 5 通年	
	社会学史演習	田中紀行	火 2 通年	
	社会調査・データ解析実習	太郎丸博	金 2 通年	

表 6 2012 年度 GCOE 学位取得者（京都大学）（16 名）

	研究科	氏名	授与年月日	博士論文題目
1	農学	Steven R. McGreevy	2012年5月23日	Revitalizing Sustainable Socio-ecological Landscapes An Examination of Organic Farming, Renewable Energy, and Carbon Sequestration Activities in Rural Japan (持続的な社会生態的ランドスケープの復興—日本の農村地域における有機農業、再生エネルギー、炭素貯留活動に関する調査研究)
2	文学	菅原 祥	2012年7月23日	社会主義的近代におけるユートピア的想像力の文化社会学的研究—社会主義およびポスト社会主義のポーランドにおける表象と記憶—
3	法学	和足 憲明	2012年9月24日	地方財政赤字の政治経済学 —米英独仏との比較における日本—
4	人間・環境学	橋本 周子	2012年9月24日	グリモ・ド・ラ・レニエールと「美食家」の誕生—フランス革命前後における食行為に関する研究—
5	文学	李 洪章	2012年9月24日	在日朝鮮人の「民族」をめぐる経験と実勢の社会学
6	文学	金 允恩	2012年11月26日	公教育における在日韓国・朝鮮人の民族教育と多文化共生教育の相互作用 —京都・大阪・川崎の事例から—
7	文学	朝田 佳尚	2012年11月26日	監視化とコミュニティに関する臨床社会学的研究
8	文学	加藤 源太	2012年11月26日	医療をめぐる二種類の知の葛藤と接合に関する社会学的研究—現代日本の臨床現場の事例から—
9	文学	渡邊 拓也	2012年11月26日	ドラッグの誕生—19世紀フランス
10	農学	坂梨 健太	2013年1月23日	中部熱帯アフリカにおける小規模農民の農業と森林資源利用に関する研究—カメルーン南部のカカオ生産地域を事例として—
11	文学	Tran Thi Minh Thi	2013年1月23日	Divorce in Contemporary Vietnam: Prevalence, Patterns and Effects (現代ベトナムの離婚: その頻度・傾向・結果)
12	文学	小城 拓理	2013年3月25日	ロック倫理学の解明とその現代的意義の探求
13	文学	Ernani Shoiti Oda	2013年3月25日	Identity, Ethnicity and Narrative: A Sociological Framework for the Experiences of Japanese Brazilians Living between Japan, Brazil and Beyond (アイデンティティ・エスニシティ・物語—在日日系ブラジル人の経験をめぐる社会学的枠組み)
14	文学	Janusz Mytko	2013年3月25日	大正政変—第三次桂内閣の成立および崩壊に伴う政治危機の研究—
15	文学	林 由華	2013年3月25日	南琉球宮古語池間方言の文法
16	人間・環境学	土田 陽子	2013年3月25日	公立名門高等女学校にみるジェンダー秩序と階層構造 県立和歌山高等女学校の事例から

表 7 コアプロジェクト

番号	研究領域	タイトル	代表	幹事
1	理論	メディア空間と親密圏/公共圏に関する理論的研究：アジアとヨーロッパの比較研究の試み	富永 茂樹	平田 知久
2		歴史概念としての親密圏・公共圏の理論的検討	富永 茂樹	平田 知久
3		モダニティ論からみた公共圏の理論的検討	田中 紀行	-
4		アジアの比較家族法	横山 美夏	-
5	コミュニティ	コミュニティ・中間圏研究	秋津 元輝	-
6		南琉球の言語と文化の記録と保存	田窪 行則	-
7	歴史	戦後日本におけるセクシュアリティと親密性の再編	小山 静子	赤枝 香奈子 今田 絵里香
8		アジアの家族と親密圏	森本 一彦	-
9	政策	比較家族主義福祉レジーム研究	新川 敏光	-
10		アジア福祉レジームの比較研究	落合 恵美子	-
11	家族	数量調査から見るアジアの家族と社会研究	岩井 八郎	-
12	労働	労働と社会階層	太郎 丸博	-
13	移動	人の国際移動と親密圏/公共圏の再編成	安里 和晃	-
14	メディア	ヴィジュアル・イメージと親密圏/公共圏研究	伊藤 公雄・ 杉本 淑彦	-
15	横断	公共圏研究会	安里 和晃	-

表 8 次世代研究出版プロジェクト

	研究代表者	所属	身分	受入教員	研究課題
1	加藤 敦典	東京大学	特任助教	松田素二	相対化するカテゴリー：ベトナム人女性の経験からみる公的領域と私的領域の相互連関に関する共同研究
2	川端 浩平	関西学院大学	研究員	松田素二	地域社会で不可視化された領域を考察するための<方法としてのジモト>
3	黄 蘊	文学研究科	COE 研究員	押川文子	東南アジアの地域社会における宗教・社会組織の諸相と親密圏・公共圏の現在—宗教・生存・連帯のパースペクティブから
4	濱野 健	文学研究科	COE 研究員	松田素二	交差する「親密圏」・つなぎ合う「公共圏」としてのフィールド：調査者と協力者、異なるポジションナリティ間の交渉の場からの考察
5	目下 渉	人文科学研究科	助教	竹沢泰子	若者ボランティア活動における親密圏の公共的機能
6	猪股 祐介	文学研究科	COE 研究員	松田素二	帝国日本の戦時性暴力再考：ジェンダー研究による親密圏と公共圏の脱構築
7	水野 英莉	文学研究科	COE 研究員	伊藤公雄	「身体化」される親密圏・公共圏—医療、感情労働、セクシュアリティ
8	Sandrovych h Tymur	文学研究科	社会学 D2	落合恵美子	社会主義・ポスト社会主義期の諸国における家族・社会変動 — 東ヨーロッパと東アジアにおける変化と継続

9	Piya PONGSAP ITAKSANTI	長崎県立大学	准教授	伊藤公雄	アジア広告の社会学：アジアのテレビ広告におけるジェンダー役割・家族像・外国イメージ—日本・中国・韓国・台湾・タイ・シンガポールの国際比較—
10	許 燕華	文学研究科	社会学 D2	松田素二	中国朝鮮族社会における親密圏・公共圏の変容：移動する人々の主体性に着目して
11	郝 洪芳	文学研究科	社会学 D1	落合恵美子	国際結婚からアジアにおける親密圏と公共圏の再編成を考える
12	平田 知久	文学研究科	COE 研究員	吉田純	メディア・インフラの技術社会史

代表者名に下線は書籍として刊行予定。その他はワーキングペーパーとして刊行。

表 11 主な国際会議・シンポジウム・セミナー

年月日	会議名
2012年4月7～8日	The GCOE Core Project Research Meeting; Welfare Care Regime
2012年6月16～17日	Symposium “Asian Families and Intimacy: The Formation of Common Ground for Asian Family Studies”
2012年6月18日	GCOE Readings Editorial Meeting
2012年6月20日	International Seminar on “Making Cold War Homes: The Politics of Domesticity in the US Military Occupation of Okinawa” by ERASMUS Prof. KOIKARI Mire from Univ. of Hawaii, U.S.A.
2012年6月25日	International Seminar on “Multilingual Education in Nepal” by Prof. Nirmal Man Tuladhar from Tribhuvan Univ., Nepal
2012年7月24日	International Seminar on “Parenting Divides and Unequal Childhoods in Taiwan” by ERASMUS Prof. LAN Pei-Chia from National Taiwan Univ., Taiwan
2012年8月1～2日	International Workshop “東アジアにおける中国朝鮮族の親密圏と公共圏の変容” @ 延辺大学 organized by 許燕華 (Kyoto University, Ph.D. Student)
2012年8月27日	International Seminar on “A Review of Third Sector Effectiveness in Japanese Public Projects: Third Sector Railways and the Third Sector in Town Planning” by WANG Meng (Ph.D. Student, Beijing Foreign Studies University)
2012年9月1～7日	East Asia Junior Workshop: Inter-University Exchange between National Taiwan Univ., Seoul National Univ., and Kyoto Univ.
2012年9月16日	The 1 <sup>st</sup> SSI (Society of Socio-Informatics) International Workshop for Young Researchers: “Adoption of Social Networking” organized by HIRATA Tomohisa (COE Researcher)
2012年11月6～7日	The 5th Next-Generation Global Workshop “Social Innovation and Sustainability for the Future: Recreating the Intimate and Public Spheres”
2012年11月8～9日	International Conference “Social Innovation and Sustainability for the Future”

2012 年 11 月 10 日	Comparative Asian Family Survey Meeting
	GCOE Readings Editorial Meeting
2012 年 11 月 22 日	International Seminar on “The Meaning of 脱垂/Datsu-A” by ERASMUS Prof. Pekka KORHONEN from Univ. of Jyväskylä, Finland
2012 年 12 月 8～9 日	International Conference “ Social Changes through Cross-border Marriage Migration in East and Southeast Asia” organized by HAO Hongfang (Kyoto University, Ph.D. Student)
2012 年 12 月 21 日	International Seminar on “Chujia (renouncing home), zaijia (being home), huijia (returning home): family complex and Chinese religiosities” by ERASMUS Prof. YANG Der-Ruey from Nanjing Univ., China
2012 年 1 月 10～11 日	The 1st Bristol Kyoto symposium 2013
2013 年 1 月 18 日	International Seminar on “Making up the Otaku” by ERASMUS Researcher Mr. Björn-Ole KAMM from Heidelberg Univ., Germany
2013 年 3 月 15～16 日	The GCOE Core Project Research Meeting; Welfare Care Regime
2013 年 3 月 20～21 日	Comparative Asian Family Survey Meeting @ Chulalongkorn University





写真 1: 落合恵美子編『親密圏と公共圏の再編成 アジア近代からの問い』

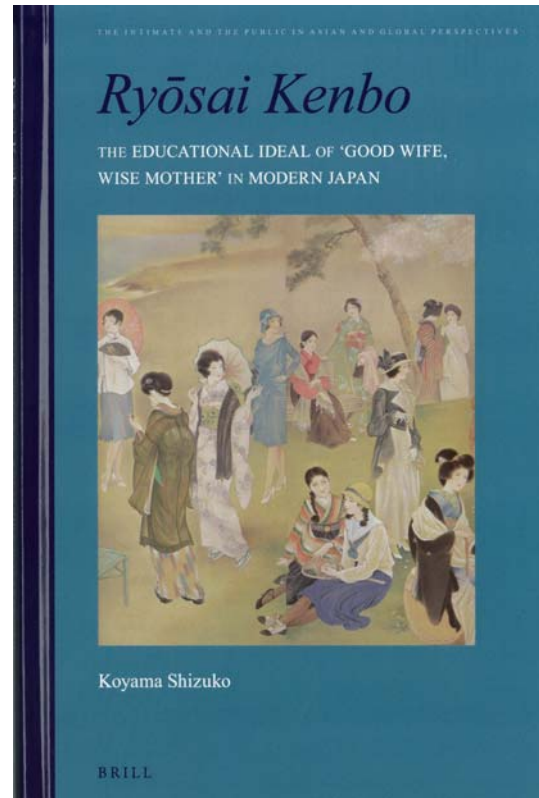


写真 2: KOYAMA Shizuko. *Ryosai Kenbo: The Educational Ideal of 'Good Wife, Wise Mother' in Modern Japan*

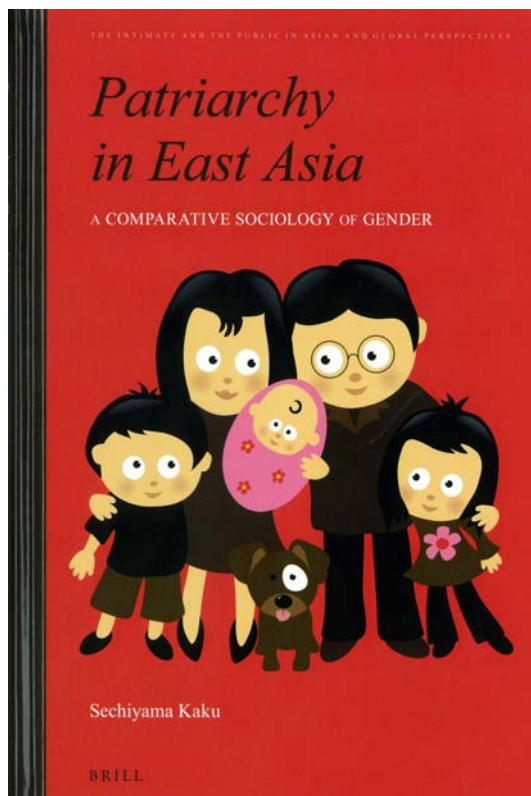


写真 3: SECHIYAMA Kaku. *Patriarchy in East Asia*

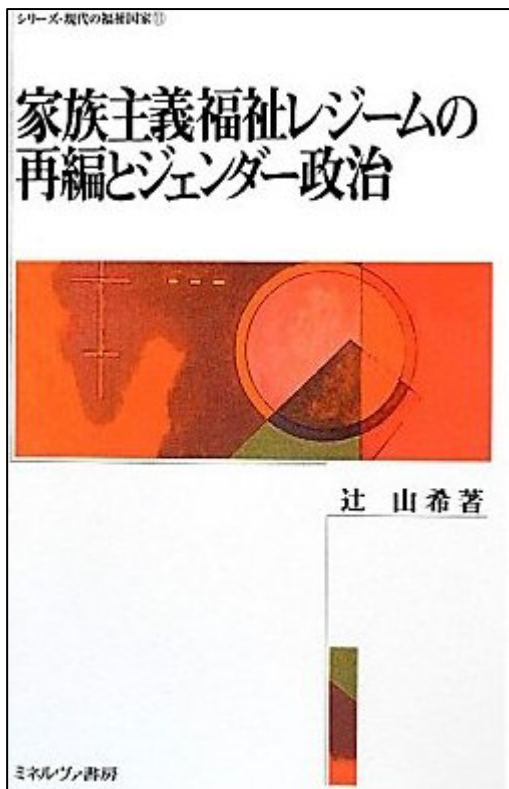


写真 4: 辻由希『家族主義福祉レジームの再編とジェンダー政治』



写真 5: 中田英樹『トウモロコシの先住民とコーヒーの国民』



写真 6: 福田順『コーポレート・ガバナンスの進化と日本経済』

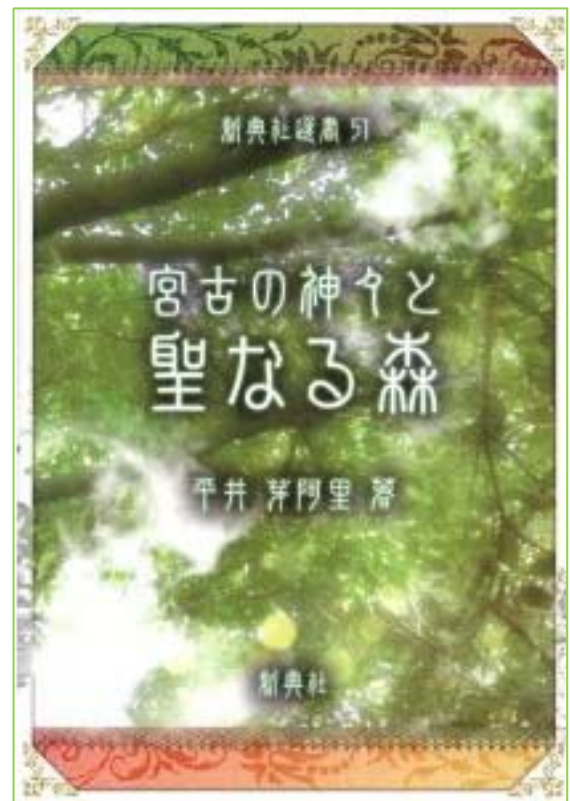


写真 7: 平井芽阿里『宮古の神々と聖なる森』



写真 8：2012 年度ワーキングペーパー（次世代）：43 冊（うち 2 冊は電子版＝HP 掲載のみ）



写真 9：2012 年度ワーキングペーパー（男女共同参画）：4 冊



写真 10：第 5 回次世代グローバルワークショップ Proceedings

## 学術的成果の刊行

## 【著書（単著、編著、共著）：英語】

KOYAMA, Shizuko. *Ryosai Kenbo: The Educational Ideal of 'Good Wife, Wise Mother' in Modern Japan*, Brill, Leiden, 2012

SECHIYAMA, Kaku. *Patriarchy in East Asia: A Comparative Sociology of Gender*, Brill, Leiden, 2012

## 【著書（単著、編著、共著）：日本語】

落合恵美子編『親密圏と公共圏の再編成—アジア近代からの問い』京都大学学術出版会 2013

稲垣恭子編『教育における包摂と排除—もうひとつの若者論』明石書店 2012

松田素二・津田みわ共編著『ケニアを知るための55章』明石書店 2012

辻由希『家族主義福祉レジームの再編とジェンダー政治』ミネルヴァ書房 2012

中田英樹『トウモロコシの先住民とコーヒーの国民—人類学が書き得なかった「未開」社会』有志舎 2013

福田順『コーポレート・ガバナンスの進化と日本経済』京都大学学術出版会 2012

安周永『日韓企業主義的雇用政策の分岐—権力資源動員論からみた労働組合の戦略』ミネルヴァ書房 2013

白崎護『メディアとネットワークから見た日本人の投票意識』ミネルヴァ書房 2013

金子雅彦『医療制度の社会学—日本とイギリスにおける医療提供システム』朱鷺書房 2012

近藤正基『ドイツ・キリスト教民主同盟の軌跡—国民政党和戦後政治 1945~2009』ミネルヴァ書房 2013

大野哲也『旅を生きる人びと—バックパッカーの人類学』世界思想社 2012

牧野雅子『刑事司法とジェンダー』インパクト出版会 2013

山本達也『舞台の上の難民—チベット難民芸能集団の民族誌』法蔵館 2013

竹沢泰子編『人種表象の日本型グローバル研究 平成24年度研究成果報告書』京都大学人文科学研究所 2013

## 【編著論文：英語】

OCHIAI Emiko, Aya Abe, Takafumi Uzuhashi, Yuko Tamiya and Masato Shikata. "The Struggle against Familialism: Reconfiguring the Care Diamond in Japan." in Shahra Razavi and Silke Staab eds., *Global Variations in the Political and Social Economy of Care : Worlds Apart*, New York and London : Routledge, pp. 61-79, 2012.

OCHIAI Emiko. "The Logics of Family and Gender Changes in Early 21st-Century East Asia," Cho Joo-Hyun ed. *East Asian Gender in Transition*, Daegu : Keimyung University Press, pp. 117-165, 2013.

## 【編著論文：仏語】

YOKOYAMA, Mika. "Droits des « biens » en droit japonais sans notion juridique de biens", CECOJI, Les modèles propriétaires au XXIe siècle : Actes du colloque international organisé par le CECOJI en hommage au Professeur Henri-Jacques Lucas, Presses universitaires juridiques de Poitiers, pp.25-30, 2012

## 【編著論文：中国語】

櫻田涼子「从房屋到家——馬來西亞華人的廉价房屋居改造及日常实践」田中仁・江沛・許育銘編『現代中国變動與東亞新格局』社会科学文献出版社（北京）70-81頁 2012

## 【編著論文：日本語】

秋津元輝「害獣駆除という狩猟——新規狩猟者による里山保全の可能性」牛尾洋也・鈴木龍也編『里山のガバナンス——里山学のひらく地平』晃洋書房 147-168頁 2012

落合恵美子「アジア近代における親密圏と公共圏の再編成——「圧縮された近代」と「家族主義」」落合編『親密圏と公共圏の再編成——アジア近代からの問い』京都大学学術出版会 1-38頁 2013

落合恵美子「東アジアの低出生率と家族主義——半圧縮近代としての日本」落合編『親密圏と公共圏の再編成——アジア近代からの問い』京都大学学術出版会 67-97頁 2013

落合恵美子「ケアダイヤモンドと福祉レジーム——東アジア・東南アジア6社会の比較研究」落合編『親密圏と公共圏の再編成——アジア近代からの問い』京都大学学術出版会 177-200頁 2013

杉本淑彦「被曝変異譚への欲望——「ウルトラの世界」と放射線」福間良明・山口誠・吉村和真編『複数の「ヒロシマ」——記憶の戦後史とメディアの力学』青弓社 227-255頁 2012

松田素二「市場経済に潜り込む生業世界」松井健、野林厚志、名和克郎共編『生業と生産の社会的布置——グローバリゼーションの民族誌のために』、岩田書院

水谷雅彦「無知と寛容と信頼と」戸田山和久、美濃正、出口康夫編『これが応用哲学だ』大隅書店 160-167頁 2012

安里和晃「人の国際移動と受け入れ枠組みの形成に関する研究」武川正吾編『グローバリゼーションと福祉国家』明石書店 71-107頁 2012

黄蘊「ベトナムのフエ・ミンフオン（明郷）における天后信仰の多面性と動態性」西村昌也編『周縁の文化交渉学——ベトナム・フエ研究最前線』遊文社 267-280頁 2012

崔博憲「外国人労働者問題の根源を考えるためのノート」池田光穂編『コンフリクトと移民』大阪大学出版会 211-239頁 2012

中山大将「韓国永住帰国サハリン朝鮮人——韓国安山市「故郷の村」の偉人」今西一『北東アジアのコリアン・ディアスポラ——サハリン・樺太を中心に』小樽商科大学出版会 208-295頁 2012

舟橋健太「平等を求めて——現代インドにおける「改宗仏教徒」の事例から」速水洋子・西真如・木村周平編『人間圏の再構築——熱帯社会の潜在力』（講座 生存基盤論 第3巻）京都大学学術出版会 207-238頁 2012

- 水野英莉「不妊治療における民間医療の検討——漢方・鍼灸・ヨガの施術者と利用者の語りから」杉浦ミドリ・建石真公子・吉田あけみ・來田享子編『身体・生・生命——個人の尊重とジェンダー』尚学社 142-172 頁 2012
- 柴田悠「リスク社会と福島原発事故後の希望」大澤真幸編『3・11 後の思想家 25』左右社 294-312 頁 2012
- 西川純司「ロールズ正義論の「救済」」大澤真幸編『3・11 後の思想家 25』左右社 153-162 頁 2012

## 【学術論文：英語】

- SINKAWA, Toshimitsu “Substitutes for Immigrants? Social Policy Responses to Population Decreases in Japan.” *American Behavioral Science* vol. 56, pp1125 – 1140, 2012.
- MIZUTANI, Masahiko “Ethics of Privacy”, Chadwick, R., *Encyclopedia of Applied Ethics*, Second Edition, Vol.3., Elsevier 2012 pp. 609-615.
- IRIE, Keiko. "Beyond “Physician-Patient” Relationship: A Case study of HIV infection due to tainted blood products in Japan," *West East Journal of Social Sciences: WEI International European Academic Conference Proceedings*, pp. 19-32, 2012
- SUZUKI, Daisuke and Takashi FUJIWARA. “Discourse Effects on the Choice of Modal Adverbs in English”, in Antonis Botinis (ed.) *Proceedings of the 5th ISEL Conference on Experimental Linguistics*, pp. 117-120, 2012
- FUKUDA, Jun. ”The Effects of Working Hours Schemes on Overtime Working Hours in Japan”, *Evolutionary and Institutional Economics Review*, Vol. 9, No. 1, pp. 1–13, 2012

## 【学術論文：独語】

- MASUMI, Nagasaka. "Die Unmöglichkeit, die in der Möglichkeit wohnt – in den Grenzen des „Verendens“, des „Ablebens“ und des „Sterbens“ : Lektüre der Derrida’schen Lektüre Heideggers", *Interpretationes*, Vol. 1, No. 2, pp.57-70, 2012

## 【学術論文：日本語】すべて査読有

- 落合恵美子「東アジアの低出生率と家族主義——半圧縮近代としての日本」哲学研究 593号 1-32 頁 2012
- 秋津元輝「戦後日本農業の変転とジェンダー——「60年代嫁世代」の経験を中心にして」『ジェンダー史学』第8号 5-20 頁 2012
- 新川敏光「労働運動の歴史的意義と展望——格差世界からの脱出」『国際経済労働研究』9月号 16–21 頁 2012
- 五十嵐陽介・田窪行則・林由華・ペラール・トマ・久保智之「宮古語池間方言のアクセント体系は三型であって二型ではない」『音声研究』第16巻第1号 134-148 頁 2012
- 大越香江、田邊智子、久本憲夫、酒井義治「外科医の特性と職務環境分析——京大病院医師アンケート調査から」『日本外科学会雑誌』第113巻第3号 334-339 頁 2012 査読あり

- 川野英二「大阪市民の貧困観と近隣効果——貧困層は対立しているのか？」『貧困研究』第9号 18-29頁 2012
- 木下衆「家族会における『認知症』の概念分析——介護家族による『認知症』の構築とトラブル修復」『保健医療社会学論集』第22巻第2号 55-65頁 2012
- 田窪行則「日本語の時間の前後関係としての日本語テンス・アスペクト」『日本語文法』第12巻第2号 65-77頁 2012
- 中村俊春「対抗宗教改革期の裸体表現批判とルーベンス」『西洋美術研究』第16号 85-110頁 2012
- 永井和・川寄陽「SMART-GSを利用した倉富勇三郎日記の翻刻と倉富家所蔵史料について」『二十世紀研究』第13号 1-41頁 2012
- 久本憲夫・福田順「女性の就労に与える母親の近居・同居の影響」『社会政策』第4巻第1号 111-122頁 2012
- 辛島理人「戦後日本の社会科学とアメリカのフィランソロピー——一九五〇—六〇年代における日米反共リベラルの交流とロックフェラー財団」『日本研究』第45集 155-183頁 2012
- 知足章宏・櫻井次郎・羅星仁「中国における廃電気電子機器政策——現状と課題」『中国研究月報』第66巻第12号 21-33頁 2012
- 知念奈美子「ホームレス保健医療福祉包括的アセスメントツールの開発過程——CCH Consumer Outcome Scales 修正日本語版のビッグイシュー大阪販売者における信頼性・妥当性の検討」『医療社会福祉研究』vol.20 37-50頁 2012
- 戸江哲理「会話における親アイデンティティ——子どもについての知識をめぐる行為の連鎖」『社会学評論』第62巻第4号 2012 536-553頁
- 戸梶民夫「規範の「底抜け」と性的政治の場の再編——2000年代後半における在阪性的少数者団体の軌跡から」『京都社会学年報』第20号 2013
- トジラカーン・マシマ「タイにおける「日本少女マンガ」イメージの歪み：少女マンガ批判と表現規制の相乗効果」『マンガ研究』第18号 43-62頁 2012
- 長坂真澄「レヴィナスの思想と懐疑論——哲学における真理基準遡行の足跡」『現代思想』第40巻第3号 190-207頁 2012
- 長坂真澄「レヴィナスにおける主体の脱領域化——カントを背景に」『宗教哲学研究』第29号 70-83頁 2012
- 長坂真澄「デリダによる超越論的病理論——カント、フッサールを導きの糸とする「来るべきデモクラシー」考」『表象』第6号 125-139頁 2012
- 長坂真澄「不可能性の可能性——デリダのフッサール読解から浮かび上がる信の概念」『フランス哲学・思想研究』第17号 161-169頁 2012
- 濱野健「婚姻移住の増加と郊外化する「ホーム」——オーストラリア、西シドニー地域における日本人女性婚姻移住者の事例より」『オーストラリア研究』第26号 49-64頁 2013
- 平田知久「E. A. ポーと二つのテレパシーの交錯——二人のジャックによせて (2)」『Becoming』第30号 76-104頁 2012

- 松永歩「地理的想像力の醸成と沖縄師範学校の修学旅行——日琉同祖論の一前提」『政策科学』19巻4号 225-240頁 2012
- 吉野裕介「ハイエクにおけるポパー的着想——W.W.バートリーの貢献をめぐって」『批判的合理主義研究』第4巻第1号 18-23頁 2012
- 吉野裕介「ハイエクにポパー的着想はあるのか?——個人的交流と学説への影響の考察から」『批判的合理主義研究』第4巻第2号 7-13頁 2012
- 井上烈「フリースクールにおける相互行為にみるスタッフの感情管理戦略」『フォーラム現代社会学』第11号 15-28頁 2012
- 岩島史「1950-60年代における農村女性政策の展開——生活改良普及員のジェンダー規範に着目して」『ジェンダー史学』第8号 37-53頁 2012
- 高誠晩「紛争後社会における大量死の意味づけ——沖縄戦の戦後処理と済州四・三事件の過去清算の事例から」『ソシオロジ』第174号 59-74頁 2012
- 小城拓理「ロックにおける暗黙の同意——明示の同意との区別について」『イギリス哲学研究』第35号 21-35頁 2012
- 坂堅太「安部公房「変形の記録」における「死人」形象について——主観的被害者か、客観的加害者か」『日本近代文学』第87集 81-95頁 2012
- 銭廣承平「人間の愚かさについて」『社会システム研究』第16号 83-95頁 2013
- 高橋頭也「ルーマンの社会理論におけるメディア概念の位置と可能性——『システムによる構成』から『システムの発生』をめぐる問題へ」『ソシオロジ』第173号 19-34頁 2012
- 高橋頭也「ルーマンにおける象徴的に一般化されたメディア概念のモデル転換とその意義」『社会学史研究』第34号 69-85頁 2012
- 高谷幸「〈親密圏〉の構築——在日フィリピン人女性支援 NGO を事例として」『社会学評論』第248号 553-570頁 2012
- デブナール・ミロシュ「在日外国人の多様化と日本社会への参加——在日チェコ人とスロバキア人の事例から見えるもう一つの可能性」『ソシオロジ』第175号 37-53頁 2012
- 村川淳「浮島と都市の「あいだ」——ペルー・ティティカカ湖における水上交通の再編とロス・ウロス社会の観光化」『ラテンアメリカ研究年報』第32号 167-194頁 2012
- 安井大輔「多文化混交地域のマイノリティー——接触領域の食からみるエスニシティ」『ソシオロジ』第175号 55-71頁 2012
- 中島満大「徳川社会における婚内子・婚外子のライフコース——肥前国野母村を事例として」『ソシオロジ』第175号 19-35頁 2012
- 西川純司「家庭衛生と窓ガラス——一九二〇～三〇年代日本の住宅言説における「明るさ」をめぐって」『ソシオロジ』第173号 3-18頁 2012
- 西嶋亜美「ドラクロワ作「墓地のハムレットとホレーシオ」諸作品をめぐって——演劇の豊饒さから絵画独自の効果へ」『美術史』第172冊 173-191頁 2012
- 和崎光太郎「初期丁酉倫理会における倫理的〈修養〉——姉崎正治と浮田和民を中心に」『教育史フォーラム』第7号 3-17頁 2012
- 和崎光太郎「近代日本における「煩悶青年」の再検討——1900年代における〈青年〉の変容過程」『日本の教育史学』第55集 19-31頁 2012



【学会賞】

松田素二 第7回日本文化人類学会賞 2012年06月24日

柴田悠 第63回関西社会学会大会奨励賞「東アジアにおける親子間援助行動の国際比較—東アジア社会調査（EASS）の2006年データを用いた記述的分析」関西社会学会 2012年5月27日

伊達平和 第63回関西社会学会大会奨励賞「高学歴が家父長制意識に及ぼす影響についての比較社会学—日本・韓国・台湾・中国・ベトナム・タイにおける比較」関西社会学会 2012年5月27日

木下衆 園田賞（日本保健医療社会学会第6回学会奨励賞）「家族会における『認知症』の概念分析—介護家族による『認知症』の構築とトラブル修復」日本保健医療社会学会 2012年5月20日

**Intimate and Public**  
News Letter Vol.9  
**CONTENTS**

<p>02 東アジアジュニアワークショップ — 京都大学・ソウル大学・清津大学交流 — 【呉 暁】</p> <p>03 新しくも深く歩き進む：選抜の日々【榎谷 爽】</p> <p>04 シンポジウム 「アジアの家族と親密性—アジア家族研究の共通基盤形成」 【坂本 一朗】</p> <p>05 京都中京地区まちづくりサポーター制度【中川 千尋】</p> <p>06 親密圏・公共圏研究コンソーシアムの設立【明川 文子】</p> <p>07 アジア親密圏・公共圏教育研究センターの開設 【森合 恵美子】</p> <p>08 京都の心【小坂 美和】</p> <p>09 美しくった京都大学での研究生生活【王 暉】</p> <p>10 非正規労働【太郎丸 博】</p> <p>11 活動記録</p>	<p>02 East Asia Junior Workshop: Asia University Exchange between National Taiwan University, Seoul National University, and Kyoto University 【HUANG Yun】</p> <p>03 A Tough but Fruity Three Weeks in Korea 【KOGIYA Leo Aoi】</p> <p>04 Symposium "Asian Families and Intimacy: The Formation of Common Ground for Asian Family Studies" 【KUROKAWA Kazutoshi】</p> <p>05 Kyoto City Office Work Evaluation Supporter System 【NAKAGAWA Chigusa】</p> <p>06 Establishment of the Research Consortium for the Intimate and the Public. 【OGIHARA Rumiyo】</p> <p>07 Opening of the Asian Research Center for the Intimate and Public Spheres. 【OGHAI Emiko】</p> <p>08 One Month in Kyoto. 【KOKARI Misa】</p> <p>09 Beautiful Kyoto University. 【KANG Minkyu】</p> <p>10 Nonstandard Employment. 【TAKAHASHI Houmei】</p> <p>11 Activity Report</p>
---	--

**表紙写真 / Cover Photo**

被災した写真との再会  
新橋区豊島山地区は2011年3月11日の日本が震度7で揺れた地震による大きな被害を受けた。その被災地から約600km離れた京都府に、被災者が亡くなった、壊れたり盗られたりした写真の宝庫がある。家族の思い出が詰まったアルバムだ。被災した写真、お守りや品々、壊れた写真や家族の思い出、思い出で約70万枚に及ぶ、被災者それぞれの写真を日々更新していき、持ち主へ返すプロジェクト「思い出のページ」に取り組んでいる。

写真は、被災地を訪問した際に一つ一つ、逐一一枚一枚を手に取りながら、傷が癒された被災者に手交した写真を見つけた。壊れた写真ももも返された人によって、写真は家族の宝庫にまで戻り、また輝くようになった家族の思い出となる。(脚稿：王 暉)


The Retrieval of Flooded Photos  
The 2011 Tohoku earthquake and tsunami badly damaged Yamashiro town, Miyagi prefecture. About 60% of households had no flood-damaged photos left. Survivors sought for photo albums filled with memories of family.

The number of photographs of disaster memories picked up in large heaps of rubble, needed to about 700,000 in this town alone. I'm working on a project called "memory subpage" that aims to salvage each water-damaged photo via IT and return them to their owners.

I took this picture in the place where the photos are returned to their owners at Yamashiro town. The woman with her granddaughter found a photo of both of them. The photo was taken when the granddaughter was a baby. For people who had everything in the tsunami, photos are a proof that their family members lived, and sometimes have to be the only substitute for dead family members.  
©Shutterstock: MEGUCHI YUKI

News Letter Vol.9  
October 2012

**Intimate and Public**



京都大学グローバルCOE  
「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」  
Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

写真 11： ニュースレター9号

**Intimate and Public**  
News Letter Vol.10  
**CONTENTS**

<p>02 GCOEの達成したこと、そして感謝【森合 恵美子】</p> <p>04 第5回次世代グローバルワークショップ "Social Innovation and Sustainability for the Future: Recreating the Intimate and Public Spheres" 【早島 理人】</p> <p>06 参加者からのメッセージ</p> <p>08 国際会議 "Social Innovation and Sustainability for the Future" 【明川 文子】</p> <p>09 京都での春と秋のひと月【執筆 博】</p> <p>10 サブカルチャーメディアとサイバースペースを通じてのトランスナショナルなコミュニケーションの研究 【ヒョーン・オレ・カム】</p> <p>11 活動記録</p>	<p>02 The GCOE's Achievements and Thanks! 【OGHAI Emiko】</p> <p>04 The 5th Next-Generation Global Workshop: "Social Innovation and Sustainability for the Future: Recreating the Intimate and Public Spheres" 【KARASHIMA Masato】</p> <p>06 Messages from Participants</p> <p>08 International Conference "Social Innovation and Sustainability for the Future" 【OGIHARA Rumiyo】</p> <p>09 A Month of Reflection and Refinement in Kyoto 【WANG De-Run】</p> <p>10 Research on Subcultural Media and Transnational Communication via Cyberspace. 【Hyun-Ou KAMU】</p> <p>11 Activity Report</p>
---	---

News Letter Vol.10  
February 2013

**Intimate and Public**



Thank you all!!

京都大学グローバルCOE  
「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」  
Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

写真 12： ニュースレター10号

## 資料 1 研究拠点形成費等補助金若手研究者研究活動経費取扱要領

平成 16 年 4 月 1 日  
 研究担当理事裁定制定  
 平成 17 年 10 月 1 日一部改正  
 平成 19 年 9 月 1 日一部改正  
 平成 20 年 10 月 1 日一部改正

(目的)

第 1 この要領は、本学における研究拠点形成費等補助金(研究拠点形成費)による若手研究者の自発的研究に必要な経費(以下「若手研究者研究活動経費」という。)を使用する場合に必要な事項を定めることを目的とする。

(選考手続)

第 2 拠点リーダーは、若手研究者研究活動経費を使用する場合には、事業推進担当者(拠点リーダーを含む。)5名以上からなる選定委員会により研究活動計画等の審査を行い、選定した者を記した若手研究者研究活動経費受給候補者申請書(様式第 1)(以下「申請書」という。)により総長に提出するものとする。

2 総長は、前項で提出された申請書により受給者の決定を行うものとする。

(選定人数の上限)

第 3 拠点リーダーは、当該年度内の受給者の選定人数について、予め上限を定めておくものとする。

2 年度の中途において、前項の選定人数を変更する場合は、若手研究者研究活動経費選定人数変更届(様式第 2)により総長に届け出て、承認を得るものとする。

(受給資格)

第 4 若手研究者研究活動経費の受給者は、次の各号に該当する者とする。

(1) 当該拠点を形成する専攻等で研究を行う大学院博士課程在籍者又は大学院博士課程修了者であること。

(2) 世界的な研究拠点を形成するために必要かつ優秀な者であること。

(3) 他から類似の経費を受給していないこと。

(経費の執行)

第 5 受給者は、本学の会計規程等を遵守し、受入教員を通して若手研究者研究活動経費の執行を行うものとする。

2 受給者は、当該拠点事業に必要な研究活動以外に若手研究者研究活動経費を使用してはならない。

3 若手研究者研究活動経費は、年度を超えて支出することはできない。

(研究活動計画の変更)

第 6 拠点リーダーは、受給者が研究活動計画を下記の要件により変更する場合には、若手研究者研究活動計画等変更届(様式第 3)により総長に届け出て、承認を得るものとする。

なお、その他の要件により変更がある場合は、個別協議とする。

(1) 受入教員を変更する場合。

(2) 経費の流用が総額の 30%以上で行われる場合。

(研究活動計画の中止、研究活動の辞退)

第 7 拠点リーダーは、受給者が受給資格の要件を欠くに至った場合若しくは受給者の異動その他の理由により研究活動の遂行が不可能となった場合には、若手研究者研究活動計画等辞退届(様式第 4)により総長に届け出て、承認を得るものとする。

(支給金額)

第 8 若手研究者研究活動経費の支給限度額は、受給者 1 人に対し、年間 150 万円(大学院博士課程修了者は、300 万円)を上限とする。

(研究活動報告)

第 9 受給者は、当該研究活動終了後、速やかに若手研究者研究活動経費収支簿(様式第 5)及び若手研究者研究活動結果報告書(様式第 6)を当該拠点リーダーに提出するものとする。

(その他)

第 10 若手研究者研究活動経費の執行等にあたっては、「研究拠点形成費等補助金交付要綱」(平成 14 年 4 月 1 日 文部科学大臣)、「研究拠点形成費等補助金(研究拠点形成費)取扱要領」等に従って取扱うものとする。

附 則

この要項は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 17 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 19 年 9 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 20 年 10 月 1 日から施行し、平成 20 年 4 月 1 日から適用する。